

加賀地方における Zephyrus の新産地 401

吉村久貴・吉岡泉

1983年3月27日、筆者ら同級生コンビは、加賀地方におけるゼフィルスの新産地を捜して能美郡辰ノ口町・石川郡鶴来町周辺を走り回ったので、その成果を報告する。

能美郡辰ノ口町 鋸谷服部鉦山 (標高約 300m)

辰ノ口町内における未記録のゼフィルスを狙った。服部鉦山の崖にはえるミズオラより、ジョウザンミドリシジミ2卵、アカシジミ1卵を採集した。付近の林道にはまだ積雪が30cmぐらいはあったが、鉦山への道路だけは除雪されていた。

その他、林道の断崖上にはえるウラジロガシよりアカシジミの2連発も採集した。

簡単に捜ただけだが、ヒサマツミドリは得られず、また鋸谷部者付近のクルミを調べたがオオガシジミは得られなかった。

アカシジミ	1卵	(ミナ)
"	2卵	(ウラジロガシ)
ジョウザンミドリ	2卵	(ミナ)

辰ノ口町 鋸谷^{ぶったいじ}～仏大寺 無鬼子トンネル (標高約 80m)

鋸谷より仏大寺・小松方面に何かう地方道の無鬼子トンネル付近の道端のゴオラを捜したところ、オオミドリシジミ7卵を簡単に得ることができた。やや日陰の小さなゴオラ(1.5m以下)で、オオミドリのポイントとしては申し分のない所だったが、比較的車輦もよく通る環境だった。

また道路右側の杉林の中の湿地でカンマオイ sp とイボタを見つけしたが、ウラジロガシシジミは得られなかった。

オオミドリシジミ 7卵 (ミナ)

能美郡辰口町仏大寺～観音山 (標高約 250～300 m)

仏大寺の部落より林道を少し入ると観音山の登り口に着く。ここより観音山に少し登ったところのゴナラよりミズイロオナガシジミ 2卵、ミズナラよりアカシジミ 1卵を採集した。

また登り口付近の杉林の中をひっそり流れる沢の水の中からはえているイボタよりウラゴマダラシジミ 22卵を採集した。

ウラゴマダラシジミ 22卵 (イボタ)
アカシジミ 1卵 (ミズナラ)
ミズイロオナガシジミ 2卵 (ゴナラ)

石川郡河内村板尾 (標高約 250 m)

板尾川に小板尾からの沢が合流する付近のゴナラよりオオドリシジミ 1卵を採集した。

付近には、まだ 50 cm 以上の積雪があったが、崖より張り出した 1.5 m ぐらいのゴナラから卵が得られた。

オオドリシジミ 1卵 (ゴナラ)

〃 鶴来町小柳 (標高約 80 m)

国道 157 号線の裏道となっている地方道沿いの杉林の下草にイボタを見つけたので、ウラゴマダラを捜してみたところ、15 卵程細化殻塊を見つけた。2～3 日以内に細化した様な新しい卵殻であったので、枝ごと採集し持ち帰り、幼虫が大きくなるのを待つことにした。

ウラゴマダラシジミ細化殻 (a 15卵 (イボタ))

〃 〃 坂尾～小柳 (標高約 100～150 m)

自動車で獅子吼高原に至る林道に少し入ったところのゴナラより簡単にオオドリシジミ卵を採集した。

ここより 500 m～1 km ぐらいの道端のゴナラを捜したところ、点々と卵が見つかり、結局 18 卵のオオドリシジミを採集した。2 連発のものも数例見つかった。また、林道沿いには点々とイボタがあり、ウラゴマダラシジミ卵も多数確認できた。

オオドリシジミ 18卵 (ゴナラ)

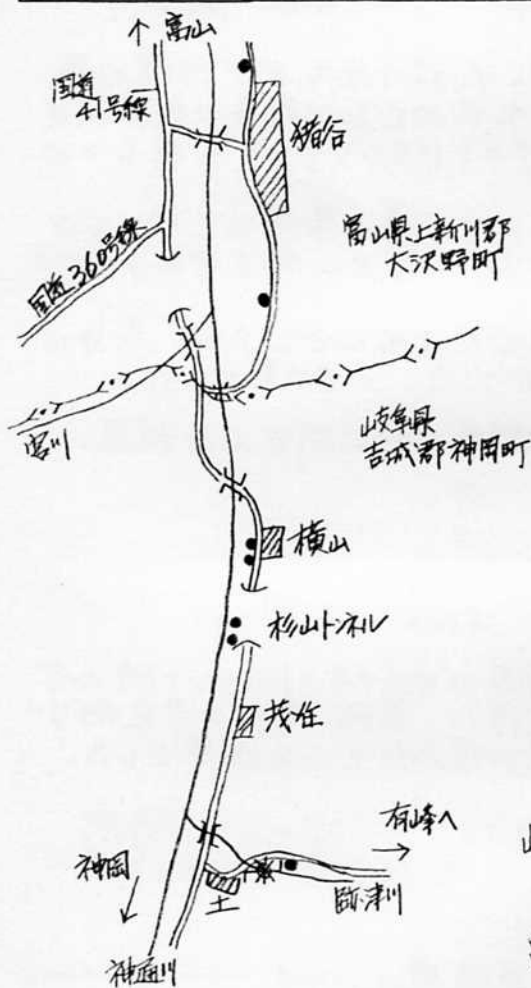
今回の調査結果のうち、辰口町におけるウラゴマダラシジミ、オオドリシジミ、シロウサンドリシジミ、鶴来町におけるオオドリシジミは各地区での新記録^{注)}となる。
(文責：吉村)

注) 石川県産ゼフィルスワケの分布について

石川石虫蝶談会 (1982) 報 No 29

ヒサマツミドリシジミ採卵における新産地調査報告

吉岡 象・吉村 久貴



従来からヒサマツの採卵の好ポイントとしては、富山県婦負郡細入村におけるウラジロガシの報告がされている。

そこは、神通川上流の分岐点(富山・岐阜県境)から西の宮川沿いに何かう途中である。

このたび筆者ら2名は、その分岐点から東の神岡方面へ何かう高原川沿いのウラジロガシにて、ヒサマツミドリシジミの採卵調査を行ったのでその成果について報告する。

調査範囲は、国道4号線沿いの岐阜県吉城郡神岡町土から下流の富山県上新川郡大沢野町猪谷までの区間のうちの4地点で、その結果は以下の通りである。

(高原川上流→下流)

デー々：1983年3月20日

岐阜県吉城郡神岡町土	48卵
同 杉山	16卵
同 横山	9卵
富山県上新川郡大沢野町猪谷	20卵

高原川右い一帯は、国道4号線に沿って深い峡谷となり、川をはさんだ兩岸の斜面には、ウラジロガシが点々と存在し、ヒサマツミドリシジミは、かなり多く生息するものと思われる。

特に兩岸の斜面が接近した地点では、その産卵数は多いと推測される。また神岡町横山では、国道のすぐ脇でも採卵することかできた。

宮川沿いのポイントへは積雪で入れなかったが、今後の調査としては、猪谷の下流・土の上流の神通川・跡津川上流・神通川に並行する河川が考えられる。

尚、神岡町杉山においては、ミズノロオナガシジミ2卵もウラジロガシより得られた。

(久貴・吉岡)

尾口村岩間でメスアカミドリシジミを採集

中西 重雄

1982年7月4日、今年採集できなかった石川県産ゼフ17種の最後の2種 メスアカミドリ、ムモンアカシジミを求めて石川県尾口村岩間まで足をのびたところ、幸運にもメスアカミドリシジミ1♀を得ることができました。

新岩間温泉から丸石谷右側の林道に入り、崖の岩場にてツマジロウラジヤノメを採集している時、タニウツギの葉上に静止中のメスアカミドリシジミ雌を採集しました。

同日、ムモンアカシジミは得ることはできませんでした。今年は県産のゼフシルス16種を採集することができ、上々の年でした。

採集データ 1982年7月4日 石川県尾口村岩間丸石谷林道

メスアカミドリシジミ	1♀
ウラゴマダラシジミ	1♀
ツマジロウラジヤノメ	3exs
ヤマキマダラヒカゲ	3exs

尚、翔№32号記載の吉村久貴氏発表のメスアカミドリシジミ雌の赤斑異常例の報告写真NO.2の個体と同様に、前翅・後翅の赤色斑が異常に発達し、後翅中央部にも赤斑紋が現われている個体でした。

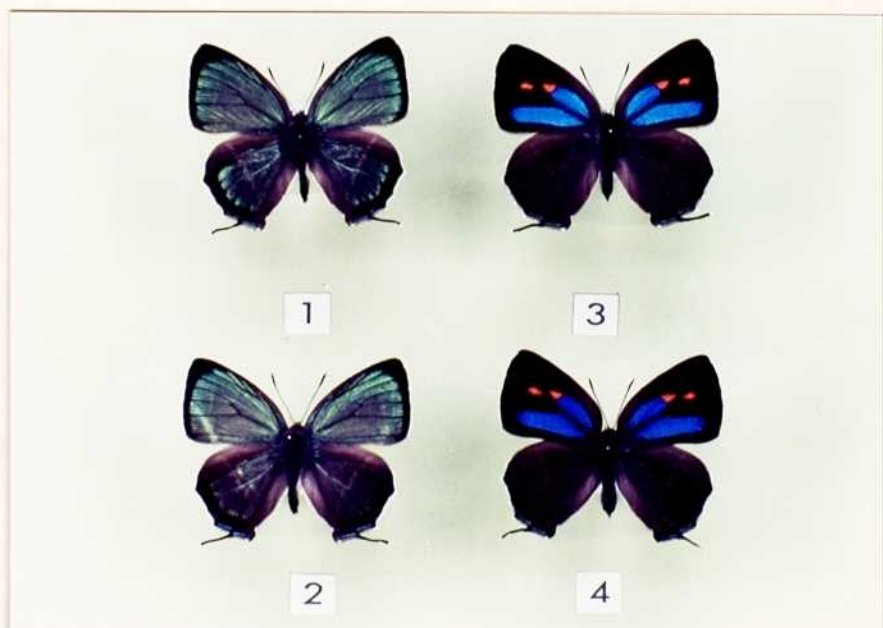
参考文献 翔№32 金沢市医王山産メスアカミドリシジミ雌の赤斑異常例
吉村久貴 (1982)

ヒサマツミドリシジミ♀の青斑の2系統色について

吉村 久貴

以前より、ミドリシジミ・ヒサマツミドリシジミの♀の飼育羽化したものの青斑(β斑)には、2通りの青色のものがあることが知られており、嵯峨井氏によるとウラミスジシジミに近い青色とルーミスジシジミに近い青色とを区別しているが、今回、ヒサマツミドリシジミの飼育羽化個体の写真撮影を試みたので、解説上に発表する。

標本はいずれも富山県婦負郡細入村産のものである。



富山県婦負郡細入村産 (採射飼育個体)

No. 1 ♂ 1981. 5. 21 羽化

No. 3 ♀ 1981. 5. 25 羽化

No. 2 ♂ 5. 22 "

No. 4 ♀ 5. 25 "

写真の個体 No. 3 と No. 4 の様に青色斑の色がわずかに違っている。同産地では赤斑 (A 斑) の大きさはまちまちであったが、赤斑も青斑もはっきり現われたものを用いた。

ヒサツミドリシジミ♀の青斑は「日本列島を南下するほど B 斑が発達していく^{※2)}」とのコメントがあるが、他産地との比較は未だ行っていない。また、筆者の知る限りでは、ウラミスジシジミにも野外採集個体と飼育個体の間ではあるが、違った青色をしているものもいる様である。この青斑色の違いが、*Favonius* 属の翅表色の「飼育カラー」と同じ様なものなのかは全くわからぬが、「羽化後の翅表の水分量と鱗粉の立ち具合」が、大きく関係しているのではないかと考えている。

※1) ミドリシジミ♀の性斑 嵯峨井 孝郎 翔 No. 6 (1979)

※2) 丹後産ヒサツミドリシジミ♀の斑紋について 安川 謙二

insect 舞鶴 No. 22 (1982)

ムラサキシジミを目撃

吉岡 泉

ムラサキシジミは南方系の蝶であり、本州の西南部では稀ではないが、北部の寒冷地に何れにつれて一般的に少なくなる。

筆者は、1983年4月2日、広島県安芸郡府中町水分(水利)峡へギフチョウを採集しに行った際、本種を目撃したので報告する。

目撃した場所は、溪流の流れる雑木林の中で、天候が良かったため、越冬した個体が陽に当たろうと石の橋の上で翅を広げていた。

濃い紫色の翅は、陽に輝いて大変美しく、筆者が2mくらいのところまで近づくと急に飛び立ち、木立の中へと消えて行った。

尚、本種は成虫で越冬し、3~4月に食樹の休眠芽、古葉、小枝などに産卵するが、目撃場所の近人には、カシ類と思われる木があり、おそらくこれが食樹ではないかと思われる。

果たして、セフの様に採卵が可能かどうか挑戦してみたい。

最後に、ギフチョウはポーズだった。

データ 1983年4月2日(土) 広島県安芸郡府中町水分峡

ムラサキシジミ 1ex (目撃)

* その他の目撃記録

レオドシキョウ	4exs	テングキョウ	49数
ルリタテハ	1ex	ルリシジミ	2exs
バニシジミ	1ex	モンシロキョウ	2exs
キキョウ	1ex		

標本方面のナラガシフについて

若下 泰子

昨年、セフイルスの飼育用にとコナラをとり、花園八幡町に出かけた。ミニト、波自加弥神社という神社がある。

その裏の斜面が雑木林になっており、コナラやクヌギが見られるがそれらに混じって、カシフに似た大きな葉を持つ木が比較的多く見られることに気付いた。葉を持ち帰って調べたところ、ナラガシフであることがわかった。

金沢では珍しい様であるが、この辺一帯には比較的多い様で、八幡の他、観法寺町の森本温泉の辺りでも見ることができた。

いずれの場所もたいへんクマギの多い所であるが、コナラはこれほど見受けられず、その代りにオラガシワが分布している様である。松井氏に報告したところ、今年、早々に始めたゼフィルス飼育に利用しようということ、3月27日、一緒に枝を切りに出かけた。

全体にオダ芽は固めであったが、日当りの良い場所では、かなり大きくふくらんでいるものが見つかり、ゼフィルスにとってポリウムのある餌となった様である。

オダ、非常に大きな芽であるので、皮を全て取り除いてしまっても、コナラクマギの数倍もの大きさがある。

したがって、固めのものでも、十分に餌として利用でき、ゼフィルスの飼育を早めに始める場合、たいへん重宝する様に思われる。

松井氏は今年、この木の詳しい分布調査に力を入れようと思っている。ぜひとも、がんばっていただきたいと思っている。

ヒロコをつぶやき

「春」

キラキラ 木むねび ぶりそそぎ
黄色と黒の だんだら模様
国に吹かれて アラチラ遊ぶ

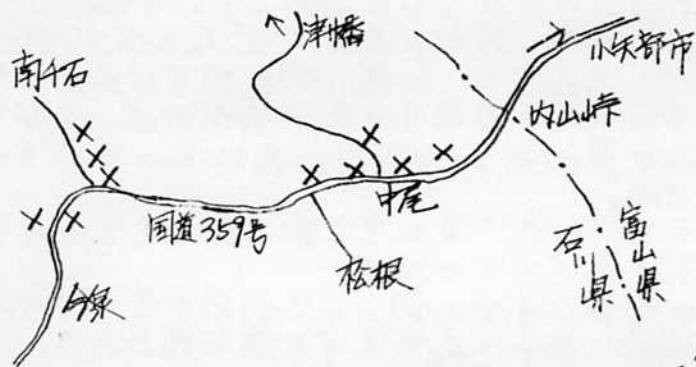
やさしい ちみいろ その花びらは
とっくり返って ゆらゆらゆれる
だんだら模様と いっしょにゆれる

みんな春こそ ムシヤの ハ・ル



〈採集地案内・3〉 金沢市中尾周辺のウラオミアカシジミ

嵯峨井 淳郎



ウラオミアカシジミは、関東・関西方面においては普通種にランクされる様であるが、石川・富山両県においては、いくらか採りにくい種に属するといえよう。

金沢市(旧森本町)における本種についても普通種だ

と思っているが、最近ウラオミアカを採集に出向してないので、状況はよくわからない。しかし、いくらか採れるはずである。

おもしろいことに、この周辺(旧森本町)ではアカシジミはあまり見られず、(全くいない訳ではない)夕陽に橙々色がヒラヒラすれば90%以上は本種だと思っで良い。

時期は6月中下旬~7月上旬。特に蒸し暑くて時雨る直前で、時間的にもPM3:00~6:00頃にマッチすれば、好成果が得られるであろう。

ウラオミアカ以外では、ミドリシジミ・ミズイロオオガシジミ・オオヒカゲ・オムラサキ・スジボソヤマキ・ヒメジヤノメ等が多く、ムムシも多いので注意。

本種に関しては、倶利伽羅や辰、口周辺でも採れるが、近い所を紹介した。

その昔、金沢市内の馬場小学校校庭にもいた(未発表)らしいが、現在はいる訳がない。

しかし、この様な貴重なデータはしかるべき人が記録しておく義務があるのでないか。

【オース案内&書評】

第5回 図説 世界の昆虫 (大阪・保育社刊)
阪口浩平著

嵯峨井 淳郎

阪口浩平著の図説 世界の昆虫 (大阪・保育社刊) 才4分冊、南北

アメリカ編Ⅱが、2月上旬に発刊された。

これで4年間にわたったシリーズは、全6巻が全て揃ったことになる。

著者・阪口浩平氏は、両眼失明に近い状況でこの原稿を草し、文字通り、未唱婦随で完成されたふうに聞いている。

今までにない一風変わったユニークな本書の構成は、動物地理学的・進化学的側面から見ても目を見張る思いである。

それに日頃定評のある保育社出版物の印刷技術の素晴らしさが、読者をもその幻想の世界に引きこり込ませてしまうのである。

阪口図鑑を酷評する方もいるが、ムシヤ必見。左右の右としていゝるかたもいるはずである。定価各巻とも1部¥13,000。

〈ニューフェイス紹介〉

- 順不同 -

= 1巻は4巻4巻の独断変更くはに =

* 吉村貴己氏 (生年月日: 539.5.24. 血液型B型)

〒194-01 東京都田代町能ヶ谷153. 夏梅文江方

(TEL 0427-34-8007)

帰省先 金沢市旭町3-21-16 (TEL. 61-2548)

御存知、現判材料編集人の実弟。ムシ兄弟とは何かと都合が悪いので、元判編集人もムシ兄弟であったが、今はおいておいた。

本年4月東京・玉川学園大学農学部農芸化学科へ入学され、葉師丸の33と教養課程で顔もあわず事がありそう。氏は、金沢二木高枝時代より甲虫に心を配り、鼻煙草のカタにフては、するどい意見を弄っている。

最近、蝶にも興味を示し(これは実弟の教育のせい?)今後中央情勢を本会に知らせてくれる事にかけているので、おんがで期待しましょう。

* 山岸善也氏

〒910 福井市室永1丁目23-3. 新藤弘十2F

(TEL 0746-27-3862)

帰省先 〒920-02 金沢市手取町107 (TEL 37-6766)

蝶談会発会当初、日本蝶類学会名簿より金沢市在住者に対し入会要請した中に氏の名前があった。事情(?)により当時入会におろされなかったが、この度、積年の恨みで入会されたものである。金沢大学工学部を卒業され、一担、高枝の先生母との職に就かれ、去年、志をあらわし、福井医科大学で医学を専攻している強者。ゼミ入の金沢育ちは朝晩おれ、産後山ハグミドリ、対馬ハグミドリと採卵と試片経験者。若くは過去のゴマシミのデ

夕を保持されているようで、単に「翔」に報告をしておらずである。
 2ヶ国に1種、金沢へ帰郷しているようだが「連絡は金沢へ」。
 現福井医科大学2年。武蔵大明下生。武蔵先生は講義の中で珍レイトン
 ホがいくら持っていて。(せくら単位もやろう?) ヒルホカはどうかは知りませんが、
 かく激しい先生だそうか?

* 勝海 雅夫氏 (京都出身)

〒921 金沢市新神田1-2-24 第2西和荘6号

タカラスガード(株) TEL 91-5555

つい最近迄、富山県に住んでいたが、転勤で金沢へ来たばかり。しかし金沢は2度目
 であるらしく、近所を採集しているところを野中氏にスカウトされた。よろしく。

目 次

加賀地方における Zephyrus の新産地 No.1	吉村久貴・吉岡 泉 --- 1
ヒサマツミドリシジミ採卵における新産地調査報告	吉岡 泉・吉村久貴 --- 3
尾口村岩間でメスマカミドリシジミを採集	中西重雄 --- 4
ヒサマツミドリシジミ年の青斑の2系統色について	吉村久貴 --- 4
ムラサキシジミを自撃	吉岡 泉 --- 6
森本方面のナラガシワについて	岩下泰子 --- 6
ヒロコをつぶしやき「春」	
<採集地案内> 金沢市中尾周辺のウラナミアカシジミ	嵯峨井淳郎 --- 8
【シリーズ案内 & 書評】	
第5回 回説・世界の昆虫 (大阪保育社刊)	嵯峨井淳郎 --- 8
二一-フェイス紹介	阪口浩平著 --- 9

翔 № 40

1983年4月24日(日)発行

発行：金沢市三田新町4-9-33 松井正人氏・百万石蝶談会

校正・編集：吉村 久貴